

本目さよ プロフィール

1982年3月10日生まれ 36歳 うお座 O型

資格：保育士 好きな物：納豆・果物
趣味：空手・読書・おかしづくり 好きな言葉：大切なものは目に見えない

私立成蹊高校、白百合女子大学を経て、お茶の水女子大学大学院修了。研究テーマは「夫婦の情緒的サポートと育児ストレスの関係」。

修了後はIT系人事職として、社員が働きやすい会社づくりにつとめる。

2011年より台東区議会議員。

2015年に再選を果たす。台東区では唯一、現役子育て中の30代女性議員。

声なき声を聞くという意志と、少子高齢化への特効薬としての子育て支援に力を入れていることからキャッチフレーズは「子育て、本命！ーやさしい政策ー」。

常に先進政策を研究し、台東区で提案を続けている。

一児の母。



連絡先

〒110-0002
東京都台東区上野桜木2-1-9-6A
FAX：020-4666-1376
MAIL：info@sayohomme.com

ホームページ・SNS

本目さよの
政策や活動はこちら！



ホームページURL：sayohomme.com

区政報告 レポート

ほんめの“眼” HOMME'S EYE

vol. 34
総集編

誰
も
が
や
り
た
い
こ
と
が
で
き
る
社
会
に
。



台東区
議会議員

ほんめ
本目さよ

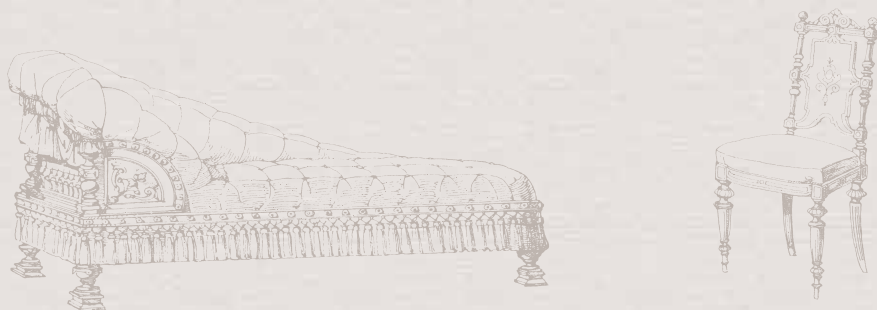
本目さよの想い

「誰もがやりたいことができる社会にしたい」
私がずっと、抱き続けてきた想いです。

心理学を専攻していた大学時代の卒業論文で調査したところ
男性はほぼ100%の人が「男に生まれてきてよかった」と
思うのに対して、女性はその半分しか
「女に生まれてよかった」と思わないという結果がでました。

その理由を尋ねたところ「出産」がキーワードにあがりました。
「こどもを産むのって痛い」
「出産したら仕事を辞めなくちゃいけないでしょ」
そんなネガティブな言葉がでてきたのです。

その後、就職して人事職として働いているとき、
育児休業を取得した女性社員から
「保育園に入れなくて仕事に戻れません」という連絡が入りました。
やっぱり、出産で仕事ができなくなる社会なのか？
という悔しさとともに「子どもを産んだから」「女だから」「男だから」
という理由で、やりたいことができない社会はおかしい。



誰も変えてくれないなら私がやる！ と人生を決断したのは8年前。
さまざまなことを提案し、変えられたこともたくさんありました。
壁に跳ね返されたことはその何倍もありました。
それでも、台東区議会唯一の30代女性として、
提案したことは重要なことだと思っていますし、
1期目に提案したことが2期目で実現したり、
今までの台東区政を大きく変える1石になれたと信じています。

自分で実際に出産を経験もして、
肉体的・精神的な辛さにめげそうになることもありました。
子どもを生み育ててきたすべての女性を改めて尊敬します。
区の事業の具体的な細かな改善点の提案など、実際の
経験に即した提案も数多くすることができるようにもなりました。

お腹の大きな身体で、もしくは首の座らない我が子と
戻らない体調のまままれるいくつもの保育園。
それでも決まらなくて胃が痛い思いをする。
やっと入ったと思ったら、園との相性があわない。
もしくは、家で一人で育てているときの圧倒的な孤独。
それらをなんとかしたい……………！

現役子育て世代の代表として、全力で議員としての責任を
果たしていくことを約束します。

台東区議会議員

本目さよ

今までの実績

～議会での質問・提案～

妊婦健診適正化

1期目から訴えてきた東京都内共通の仕組みを、少しでも適正化！ C型肝炎の検査が初回の補助に組み込まれたことで初回検査の負担が少しは減少したはずです。知り合いの各区の議員からも役所に働きかけをもらい、ようやく実現。HIV検査の補助も追加されました。さらに超音波検査も台東区独自で補助を実施。

訪問型病児保育の補助

1期目の最初の一般質問で病児保育を提案したところ「病気のときくらい親がそばにいてあげたほうが良いという考え方もあります」と答弁されて唖然としました。セーフティネットとしての病児保育は必要だと訴え、とうとう実現。

区議会ペーパーレス化 (ICT推進協議会サスリーダー)

区議会議員として働きはじめてまず驚いたことが圧倒的な紙文化でした。役所も区議会も合わせて、ペーパーレス化に引き続き取り組んでいきます。

保育所入所最低点の公表

どこが人気でどこが入りやすいのか？ 今までは電話で問い合わせれば各園の最低点についてお伝えしていました。それならば、ホームページで公開してしまえば公正だし、職員の手間も減ると提言。

ワークライフバランス推進企業認定制度

大企業はできても中小企業はワークライフバランスなんて無理、という話をよく聞きます。しかし、日本企業の多くは中小企業。台東区内の企業がワークライフバランスを推進していかなければ、働く方々が仕事もプライベートも充実させることはできません。先進区である新宿区に視察の上で、課題とともに提案したことが実現。行政の尽力で多くの企業が応募してきてくれます。

協働型提案制度

行政課題が多様化する中で、NPOなど区内で社会的課題を解決するために働く団体と協働して取り組むことで、よりきめ細やかに効率的に目的を達成できると提案したものです。

実現した初年度は、食品ロスをテーマにしたサルベージパーティが行われました。

集団型産後ケアの実現

大田区に視察に行き見学。心と体のセルフケアの手法をバランスボールエクササイズとともに実施する集団型の産後ケアが社会福祉事業団で実現。

小規模保育所等に入所の第二子の不利益を変更

第一子が小規模保育施設に入っている場合、区の認可園であるにもかかわらず、認可保育所に入所の子と差が発生していました（育休から復帰しなくてはならなかった）。その部分について小規模保育所でも認可保育所でも待遇が変わらないように改善。

骨髄ドナーに対する補助制度

同年代の名古屋市議が白血病で闘病生活を送る中で自治体への政策提案をしたのがこの補助制度です。ドナー提供者のハードルの1つである仕事を休むことでの金銭的な負担。そこをできる限り低減させるべきと提案しました。全国の青年議員で提案を実施、実現。この制度を利用して先輩議員が実際にドナーとして骨髄提供をされています。提供しやすい仕組みづくりに一役買ったのは大変嬉しいことです！

居宅型障害児保育

医療的ケアを必要とする子どもは保育園での受け入れが難しいことがあります。子どもに障がいがあったら保護者は仕事を辞めなくてはならないのか？ マンツーマンで対応できるベビーシッター型の障がい児保育が実現しました。必要な方が利用されています。

いつとき保育の充実(谷中)

1期目に日本堤だけでは足りないのでは？と独自に実施したアンケート結果をもとに提案。その際には利用率もそこまで高くないため増やすつもりはないと答弁がありました。谷中や南部地域から預けに行くのはハードルが高いと何度も提案を行いました。実際の申請率は100パーセントに近い状態であり、谷中でのいつとき保育の実現に至りました。

公立私立幼稚園の預かり保育の実施や充実なども含めて、リフレッシュや気軽に預けられる仕組みづくりを今後も進めて行きます。

★その他にもたくさんの
提案・実績があります！

※掲載項目は、区議には予算の執行権がないため、本目さよだけが提案したものではないものもありますが、提案に関わったもの。



WOMAN SHIFT



「政策実現できる女性議員を増やし、女性議員を女性のキャリアの1つとする」ことをミッションとする若手女性議員のネットワークWOMANSHIFTを立ち上げ、活動をしてきました。全国の仲間と悩みや政策実現の手法について共有し、マニフェスト大賞にて特別賞を受賞。また、数多くの新聞などのメディアにも取り上げていただきました。全国の自治体で20～30代の女性議員はたった1%しかいません。台東区はもちろんのこと、日本も変えていきたいと思っています。

大学のセミナーで講師をつとめる

母校のお茶の水女子大学大学院で講師をつとめました。キャリア講座や労働組合の若者に向けた「議員の仕事体験ワークショップ」などを行いました。

定期的なレポートの発行

年に4回の定例会がありますが、主に定例会ごとに区政報告レポート「本目の眼」を発行。また、特に子育て政策については誰よりも早く区民の皆様にブログで情報をお伝えしてきており「台東区で子育て支援といえれば本目のブログを見るといい」と言っていただくことも増えました。区政や私が取り組んでいることについて、またエリアは限られていますが、谷中を中心とした地域にポスティングを毎回実施するなどわかりやすく区民の方々に伝える努力をしてきました。



→確実に手元にはしいという区民の方がいらっしやいましたら、郵送でお送りしますので、本目さよまでご住所とお名前をお教えてください。

区民参加型の取り組み

本茶会(本目さよとお茶を飲みながらまちのことを話す会)「保活セミナー」の実施、ファミリーフレンドリー施設づくりプロジェクトなど、区民の方々と一緒に台東区をよくしていく活動に取り組んでいます。



キャッチフレーズ

子育て、本命。 —やさしい政策—



子ども

子育てがしやすい社会、子どもの立場に立った社会をめざします。

保護者が笑っていて、子どもも笑っている台東区。子どもは社会で育てられていて、子育てで苦しむ人がいない。多様な子どもたちが、あるがままで生きられ、居場所があり、遊びを通じて学ぶことができる。

- ・ロタワクチンの補助
- ・電動鼻吸機の補助
- ・保育の量と質の拡充
- ・色覚対応チョーク利用100%
- ・中高生の居場所づくり
- ・受動喫煙から守るニコチン検査の実施
- ・プレイパークの実施 など



女性

女性の立場に立ち、性別にかかわらず誰もが暮らしやすい社会をめざします。

社会的な性別(ジェンダー)によって、不当にできないことがない台東区。女性ならではのライフイベントに対するフォローは手厚く、希望する人が安心して出産育児ができる。男女ともに仕事と家庭と地域を当たり前で両立できる。

- ・預けたいときに預けられる保育の充実
- ・不妊治療の補助所得制限の撤廃
- ・子育て設備チェックリストの作成
- ・性的マイノリティ支援ノ
パートナーシップ制度の導入
- ・区立幼稚園預かり保育 など



ICT(開かれた区政)その他

ITなどさまざまなツールを活用し、区政の効率化・わかりやすい区政をめざします。

何度も手書きしなければならぬ書類などがなくなり、効率的に行政運営がされている台東区。ICTが活用され、区政の情報へ簡単にわかりやすく区民の方々がアクセスでき、その情報をもとにして区政に参画できる社会。もちろん高齢者政策、障がい者政策にもしっかり取り組みます。

- ・区議会本会議生中継
- ・AI・RPA(業務自動化)などを活用した行政の効率化
- ・マルチペイメントの推進
- ・リノベーションまちづくりの推進
- ・こども宅食などのガバメントクラウドファンディングの実施 など

★みなさまのお困りごとを政策につなげていきます!お気軽にご相談・ご意見をお寄せください。